



# Risk Flash No.15 (Vol.2 No.1)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
 発行責任者：リスク研究センター長 久保英也  
 〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1  
 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189  
 e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp  
 Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>

●御挨拶	Page 1-2
●今週の論文紹介：心理的契約の履行成果に関する研究： 2時点大規模サーベイに基づく検討	Page 2
●教員紹介：宮西賢次・リスク研究センター通信	Page 3

## 御挨拶

滋賀大学学長 さわたかみつ 佐和隆光

週日の毎朝、滋賀大学への出勤途上に彦根城の外堀沿いの道を車で通るのですが、外堀にブラックスワンがいるのを見て驚きました。赤くて長くちばしの先の方が白く、羽の色以外は、大きさといい姿かたちといい、同じ堀に棲むホワイトスワンとまるでそっくりなブラックスワンが堀を泳いでいるではありませんか。なぜ彦根城の外堀に「こくちょう」と呼ばれるブラックスワンがいるのかと訝り、彦根市の観光局に問い合わせたところ、次のようなことが分かりました。

御存知のとおり、安政7(1860)年3月3日、彦根藩主の井伊直弼大老は水戸藩脱藩浪士により暗殺されました。いわゆる「桜田門外の変」です。以来、明治維新後になっても、彦根藩士の水戸藩士への怒りは収まるどころを知らず、折に触れて、両藩の対立は跡を絶ちませんでした。廃藩置県の後も、彦根市と水戸市の不仲は続いたのですが、両市が和解して親善都市協定を結んだのは、1970年、

皮肉にも、井伊直弼の曾孫の井伊直愛さんが彦根市長を務めていた時のことです。  
協定の証として、彦根市からは堀の白鳥が水戸市に贈られ、水戸市から梅の苗木が贈られたとのことで



す。その後、1987年、世界古城博覧会が彦根城で開催された際に、ブラックスワン4羽が水戸市から彦根市に贈られ、以来、彦根城の外堀をブラックスワンが泳ぐようになったとのことです。では、なぜ水戸にブラックスワンがいたのかを調べてもらったら、1978年、山口県宇部市のときわ公園から、水戸市偕楽園に贈られた2羽のブラックスワンが、偕楽園の千波湖に棲むようになったとのことです。では、なぜ宇部市のときわ園に黒鳥がいるのかとの謎は、宇部市がオーストラリアのニューカッスル市と姉妹都市であることにより解くことができました。

私のような経済学者は、この逸話を聞いて、2009年に日本語訳が出たナシーム・ニコラス・タレブの『ブラックスワン』(原著は2007年)と題する名著のことを、とっさに思い起こしました。もともと西欧では「スワンは赤くて長くちばしと長い首を持つ白い水鳥」と確信されていたとのことです。ところが、1770年、スコットランド人のキャプテン・クックがオーストラリア大陸のシドニーに上陸し、領有を宣言し、入植が始まりました。入植者が驚いたことの一つは「黒いスワン」がオーストラリアにいたことだったのです。「あり得ないと思っていたことが起きた」のです。黒い白鳥すなわちブラックスワンの語源はそこまでさかのぼるのです。こうした次第で、「ほとんど起こり得ないけれども、起これば大きな影響を及ぼす事象」を、タレブはブラックスワンに例えたのです。

タレブが『ブラックスワン』を出版した翌年、国際金融危機、リーマンショック、世界同時不況が連鎖的に起きました。アラン・グリーンズパン米連邦準備制度理事会 (FRB) 前議長は、国際金融危機を「100年に一度」の危機、すなわちブラックスワンもどきだと断言しました。そんなわけで、期せずしてタレブは、国際金融危機の予言者に祭り上げられてしまったのです。ところが、これはまったくの誤解なのです。タレブの診断によると、国際金融危機はブラックスワンではなかったのです。新しい金融商品が次々と登場した結果、金融システムが複雑化し、脆弱化していたがゆえに起きた、予想可能な範囲内の出来事に過ぎなかったのです。

もともとタレブは、神ならざる人間にとって、社会経済現象の定量的予測は不可能な仕事だと主張するのです。私も同感です。ですから、だれにも適正なリスク評価・管理ができそうにない複雑怪奇な金融商品に、素人は手を出さぬよう警告するのです。さらには、複雑な金融商品の販売を政府は禁止すべきだとまで言うのです。二度と2008年の国際金融危機を繰り返さないよう、金融システムを建て直した上で、様々なブラックスワンの襲来に備えて頑健(ロバスト)な社会をつくることをタレブは提唱します。「君子危うきに近寄らず」、「触らぬ神にたたりなし」、「備えあれば憂いなし」の薦め、これこそが『ブラックスワン』の教えなのです。

## 今週の論文紹介

### 心理的契約の履行成果に関する研究:2時点大規模サーベイに基づく検討

はっとりやすひろ

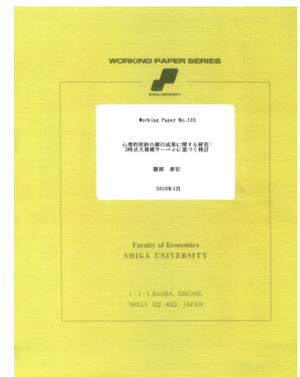
著者: 情報管理学科准教授 服部泰宏

収録: 滋賀大学経済学部ワーキングペーパー No. 123 (全31ページ)

キーワード: 心理的契約の履行、期待、多項式回帰モデル、応答局面法、経時的調査

概要: ジェームズ・アベグレン(1926-2007)は、1958年に書かれた著書「日本の経営」の中で、日本企業の特徴が会社と社員の終身の関わり合いにあるとし、それを「ライフタイムコミットメント(邦訳:終身雇用)」と呼びました。かつての日本企業は、余程のことが無い限り社員を解雇せず、社員もまた容易に他の企業に移ることはありませんでした。重要なのは、「終身雇用」のような重要な項目が、文章化され法的に履行を担保された契約ではなく、いわば書かれざる約束事として、成立・維持されてきたことにあります。このように会社と社員との間に成立している、必ずしも文章化されない約束事を心理的契約と呼びます。会社と社員の相互期待といってもよいでしょう。本論文は、この心理的契約の視点から、日本企業による約束の違反とそれがもたらす影響について検討したものになります。

この論文では、日本の製菓会社の社員を対象としたアンケートデータの解析によって、社員がもともと強い期待を寄せていた契約が会社側によって違反された場合、また、社員が全く期待していなかった契約が履行された場合には、会社に対する社員の信頼と愛着は低下し、離職可能性が高まること、反対に、社員がもともと強い期待を寄せていた契約が、会社によってしっかりと履行された場合にはじめて、社員は会社に対する信頼と愛着を強めることを明らかにしています。会社と社員との関係が良好なものであり続けるためには、あらかじめ約束された内容について、お互いが確実に履行義務を果たすことが極めて重要である、という結果です。



### 著者のつづやき

戦後の復興いちじるしい日本に降り立ったアベグレンは、会社と社員の終身の関わり合いに日本企業の特徴を見出しました。それから50年ほど経過した現在の日本企業では、終身雇用の崩壊を含め、さまざまな約束違反が発生しています。成果主義の導入や雇用形態の多様化、転職機会の増加や自律的なキャリア志向によって、会社と社員の関わり合いは、これまでとは違ったものになりつつある

ようです。これは誰もが認めるところだと思います。ところが、具体的にどの部分で約束違反が発生していて、それがどのような結果を招いているのか。会社と社員の関わり合いは、具体的にどのようなものとなっているのか。こうした点についてわかっていることは意外と少ないのです。本論文は、こうした問題について考えるための1つの視点を提供するものと思います。

## 教員紹介 「宮西賢次」

### (1) 先生のご研究についてお聞かせください。

最初の研究テーマは、キャッシュフロー情報に基づく業績評価についての研究でした。私が 20 代の頃は、まだキャッシュフロー計算書などが導入されていませんでした。伝統的な会計制度では、発生主義会計に基づく損益計算書と貸借対照表だけが報告されていました。しかし、その情報だけでは、企業の業績を正しく評価できないのではないかとの問題意識を持ちました。そこで、キャッシュフローを導入した方が、企業の業績や価値をよりよく評価できるか否かについて、実証研究を行ってきました。

その後 30 代になって、アメリカのケロッグ・ビジネススクールの博士課程に留学する機会を得ました。フルブライト奨学金を戴き、ロバート・マギー教授、ロナルド・ダイ教授といった先生方と共同研究する幸運に恵まれました。マギー教授は、アメリカ会計学会発行の学術雑誌『アカウンティング・レビュー』の編集長をされており、歴史的に屈指の会計研究者として評価を得ている人物でした。ダイ教授は、会計情報のモデル分析で世界的権威として知られていました。これらの世界最高水準の研究者と、情報経済学やファイナンスのモデル分析を会計学に応用する研究に取り組みました。数学的分析手法を用いて、会計情報と経営者の意思決定の関係について研究しました。これが、日本では追求しえない世界最先端の研究アプローチでした。

### (2) 最近関心を持たれているご研究はどのようなものですか。

ご存じの通り、ここ 10 年間に会計基準も大きく様変わりしてきました。資産・負債の時価評価や、利益操作を防ぐ様々な会計処理の導入など、会計ビッグバンと呼ばれるほどの変化が生じています。さらに現在は、国際会計基準が世界的に導入されつつあります。そこで、この新しい会計制度のもとで計算される会計情報を用いて、企業価値を評価するモデルについて研究しています。質的に変化している会計情報に対応した企業の評価モデルを明らかにすることが、目下の研究課題です。

### (3) アメリカでのご経験を教育にどのように活かされていますか。

研究内容は数学的なものや分析的なものが中心ですが、特に実践への応用を重視して教育に還元するよう努めています。本学の学部と大学院のカリキュラムを改革し、コア科目を中心とした実践的な教育内容を導入しています。アメリカのビジネススクールで確立された教育方法を取り入れ、最近の研究成果も応用することで、財務諸表分析や企業価値評価に関する実践的な問題解決力を鍛える内容を提供しています。知っている、ではなく、分かっている、これを重視した教育に取り組んでいく所存です。

会計情報学科准教授 みやにしけんじ 宮西賢次

## リスク研究センター通信

### 卒業式報告

3/25 (金) に彦根市文化プラザにおいて平成 22 年度滋賀大学卒業式が行われました。経済学部の卒業生、経済学研究科修士、博士の修了者、合わせて約 620 名が教育学部の学生と共に式に臨みました。ぴんと張り詰めた中にも喜びが溢れ、また正装した参加者に、会場は華やかな雰囲気になりました。

佐和隆光学長からは、日本と欧州の文化比較をもとに、「予期せぬことが起こっても、それに耐えられる頑強性をこれからの社会人生活の中で身に付けて欲しい」と意義ある訓辞がありました。また、14 名の来賓の方からもそれぞれショートスピーチを頂き、会場

にはこれからの困難に際しても自信を持って立ち向かおうとの意欲が感じられました。

卒業式終了後は各ゼミ、各クラブ、サークルで写真撮影が行われ、卒業祝賀会を自粛した中ではありましたが、さわやかな春の日となりました。

くぼひでや  
(文責 久保英也)



### 「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

#### 【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

#### 【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

#### 【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

#### 【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

#### 【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

\*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

( <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12> )

\*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター  
編集委員：ロバート・アスピノール、金秉基、久保英也、  
澤木聖子、得田雅章、弘中史子、宮西賢次  
滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局  
(Office Hours:月一金 10:00-17:00)  
〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1  
TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189  
e-mail: [risk@biwako.shiga-u.ac.jp](mailto:risk@biwako.shiga-u.ac.jp)  
Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>